

八王子市立第三小・第四小・第十・大和田小学校

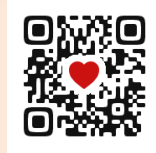
子どもの囲碁教室だより

85号 2023年11月

編集 成田 滋 shigerunarita@gmail.com

ブログ <https://naritas.jp/wp/>

八王子囲碁連盟 <https://hachigoren.com>



◆ 11月の子どもの囲碁教室の日程

- ・ 第三小学校：11月7日、14日、21日、28日
毎週火曜日 2時30分～ 四階 算数教室
- ・ 第四小学校：11月6日、13日、20日、27日
毎週月曜日 2時30分～ 二階 ひらめき教室
- ・ 第十小学校：11月10日、17日 2時30分～
毎週金曜日 一階 家庭科室
- ・ 大和田小学校：11月1日、8日、15日、22日、29日
毎週水曜日 午後2時30分 二階 図書室

◆ キリスト教音楽の旅とオルガンの歴史

教会で用いられる器楽の代表はなんといってもオルガンということになります。オルガンはパイプオルガンを指します。歌や合唱を支えたり、単独でも演奏されるのがオルガンです。ルター派の教会では、オルガン奏者が歌詞の意味を汲んで、各節ごとに伴奏の和声を変えることがしばしばあります。典礼におけるオルガンと奏者の役割は誠に大きいといえます。

オルガンの歴史

オルガンは鍵盤楽器のなかでは最も歴史が古いものです。その大きさもひざの上ののるポルタティブ(portative)と呼ばれる左手でフィゴからパイプに空気を送り、右手は鍵盤でメロディを奏でるもの、やや大きいポジティブ(positive)という据え置き型のもの、そして礼拝堂に組み込まれる巨大なものまであります。大オルガンの場合、その複雑な構造は楽器の中では他に類をみないものとなっています。

オルガンコラール

バロック時代(baroque)ではオルガンではなく、ハープシコード(harpsichord)や弦楽合奏がみられました。現代ではピアノやギター、ドラムなども使われます。その変遷は各教派によって異なります。多くの教派のうち、オルガン音楽に重きを置いたのはルター派です。特にバロック時代ではコラール旋律を定旋律として用いたオルガンコラールが多数作曲されます。コラール前奏曲はコラール歌唱に結びつき、まさに礼拝音楽といえるものです。コラール・フーガ(coral fuga)、コラール・ファンタジア(coral fantasia)は礼拝の

前後や中盤で奏せられます。こうした音楽は会衆の信仰的な情動を呼び覚ます

役割もあるといえそうです。バロックとは、16世紀末から17世紀初頭にかけてヴェネツィアやフィレンツェで誕生し、やがて欧州全体に広まった文化や美術の様式といわれます。

グレゴリオ聖歌

15世紀頃からローマカトリック教会では、オルガンミサ曲、オルガンヒム(organ hymns)が作られていました。こうした楽曲は本来声で歌われるグレゴリオ聖歌を定旋律として用いられ、オルガンによって歌唱が交互に奏せられるようになりました。これが今日の礼拝の形式となっています。

バロック時代には使徒書(Apostle)と福音書(Gospel)との間でトッカータ(toccata)が演奏されました。トッカータはオルガンによる即興的な楽曲で、技巧的な表現が特徴の音楽です。英国国教会でも礼拝の前後に奏楽され、会衆の歌のための前奏曲(hymn prelude)が即興で演奏されます。プロテスタント教会も礼拝ではこうした奏楽形式を採用しています。

北海道で最初のオルガン

私は1965年頃、所属する教会に北海道で最初のオルガンが設置される過程をつぶさに観察することができました。このオルガンは400本くらいのパイプで、ニューヨーク州バッファロにあるSchlickerという会社が製作したものでした。ポジティブという据え置き型オルガンでした。

